



分別リサイクル推進検討委員会 検討結果報告

捨てればゴミ 分ければ資源

町民の皆さんとともに「自律のまちづくり計画」が策定されました。この計画には、町が抱える重点課題7項目の一つに「ごみ減量・再資源化の促進」が掲げられています。その推進の一環として、公募で「分別リサイクル推進検討委員会」が組織されました。このほど、委員会での検討結果がまとめられ、報告がされました。

今回は、その内容を町のごみの現状などと併せてお知らせします。

平成17年9月12日に、日野町エコーイフ推進協議会の専門委員会として、公募で参加された7名で発足された検討委員会にて、ボランティア精神のもと、1年間で17回と精力的に調査検討いただきました。

具体的な活動

- ◎ごみの処理などの基礎的な知識を深めるための現地視察
- ◎排出されるごみの収集作業の実態調査
- ◎中部清掃組合（日野清掃センター）更新にあたっての県外視察研修
- ◎日野町から搬送される県内外のリサイクル施設の視察研修
- ◎リサイクル推進に向けた具体的な活動の検討
- ◎町長との車座懇談会での意見交換

▼桑名市クルクル工房視察の様子



▲市民から寄せられたリサイクル品を販売



▲多品目に分けてリサイクル

分別収集の実態

下の写真は、びんの引き取り先の東洋レット（湖南市）に視察に行ったとき、日野町から出されたびんの中に混入されていた異物（茶碗、薬品のビニール製容器、乾電池、耐熱ガラス）です。

びんの分別収集が実施されて2年が経過しましたが、まだまだ異物が混入しているという実態が分かりました。

▼びんのコンテナに入っていた異物



空びんは細かく砕かれ、ガラスびんの原料になりますが、このような状況では欠陥びんの原因になり、せっかく色分別しても、再利用がされにくくなります。

分別リサイクルの活動を振り返って

分別リサイクル推進検討委員会 委員長 吉沢詔治さん



「捨てればゴミ 分ければ資源」確かこのような標語だったと思いますが、10年ほど前に目にして、なるほど」と思い、その後、自分でリサイクル集積庫を2か所設置し、月1回収集をして福祉施設へ持っていくようになって7、8年になります。

同じ税金を使うのなら燃やすのに使うより福祉施設で使ってもらう方が、税金が生きていくのが私の考えです。今回、委員長という大役を仰せつかりましたが、メンバーの皆様のお陰で今後の方向性を具申できることになりました。これからは、具体的な行動に移すことになりましたが「リサイクル応援団」として、ますます仲間が増えますことを願っております。

【委員メンバー】 吉沢詔治（委員長）、岡麻里子（副委員長）
加藤芳子、加納新一、中野正枝、山田すみれ、山本秀喜

（敬称略）



捨てればゴミ 分ければ資源

ごみの現状

日野町が中部清掃組合（日野清掃センター）へ搬入した可燃ごみの搬入量は、図1のとおりです。

平成17年度の搬入量は5,028t となっています。これらの可燃ごみをパッカー車（2t積）に積載すると、約2,500台分となり、パッカー車（車体長さ6・8m）を縦に並べると、国道477号平子峠から東近江市役所蒲生支所までの距離（約17km）に相当します。

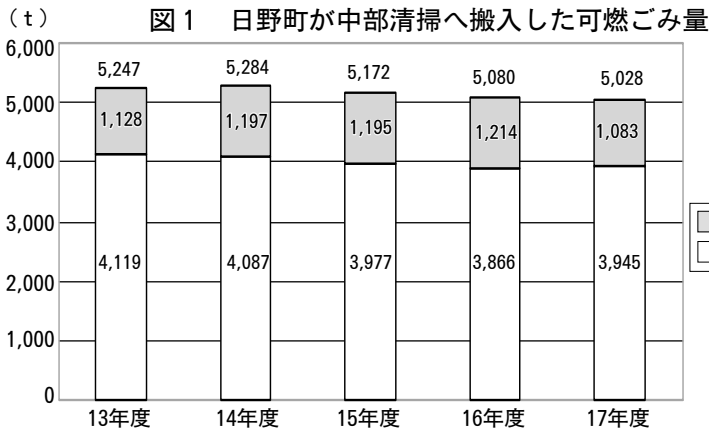
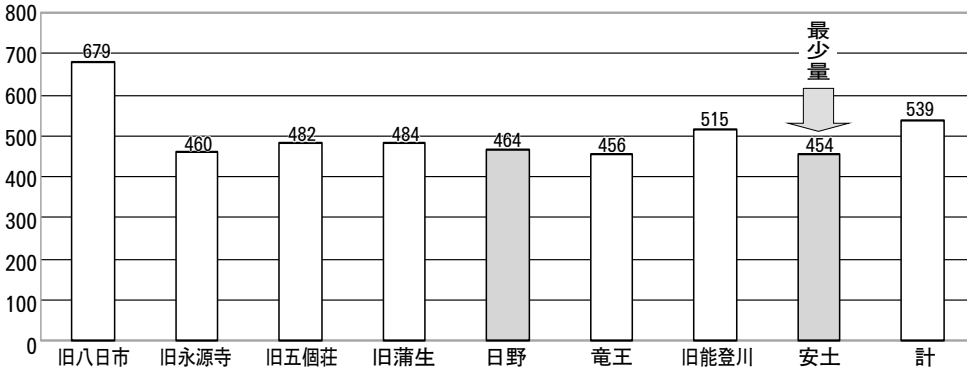


図2 一人一日当たりの可燃ごみ量（※集積所回収分で計算）



集積所で回収した可燃ごみが、平成13年度から平成16年度まで減少傾向にあるのは、平成15年度から可燃ごみの内、資源となる古紙を分離して収集したためと考えられます。しかし、平成17年度にはアパートの増加など世帯数が増えたこともあり、集積所回収した可燃ごみが再び前年度

今後の課題

◆家庭の生ごみを減らす

ムダのない買い物をするのが大切です。「週間献立をつくる」「事前に買い物リストをつくる」「バラ売り商品を買う」「冷蔵庫の中身をこまめにチェックする」などを心がけましょう。また、生ごみの約70〜80%は水分です。きちんと分別し、しっかりと水を切るだけでもごみを減らせます。

さらに生ごみは、畑や花壇などに肥料として利用（リサイクル）することができます。電気式生ごみ処理機やコンポスト容器もありますが、生ごみに落ち葉などを積んで堆肥にする昔ながらの自家処理方法もあります。

◆可燃ごみを資源にする

可燃ごみ袋にペットボトル、紙類、古着類などが入っていますが、これらを資源としてリサイクルにまわすことで、ごみの減量ができます。それぞれリサイクル品目の入れ物を置き、分別する習慣をつけましょう。

また、「リサイクルしたいのに、どこへ出したらよいか分からない」という方のために、行政だけでなく、いろ

を上回っています。平成17年度の可燃ごみの搬入量を、中部清掃組合の構成市町別に比較すると図2のとおりです。

表1 リサイクルチャンネル表

リサイクル品目	行政回収	わたむきの里	日野なのはなクラブ	備考
生ごみ	○ 週2回	—	—	
ペットボトル	○ 月1~2回	—	—	
古紙(新聞・雑誌・ダンボール)	○ 月1回	○ 随時	—	
雑多紙(菓子箱など)	—	—	—	
古着類	—	○ 随時	—	
紙パック	○ 2か月1回	○ 随時	—	
白色トレイ	○ 2か月1回	—	—	
スチール缶・金属類	○ 月1回	—	—	
アルミ缶	○ 月1回	○ 随時	—	
びん	○ 月1回	—	—	
バザー物品	—	○ 随時	—	バザー利用
家庭用廃食用油	—	—	○ 奇数月の第4日曜日	各公民館で回収

んな団体のリサイクル回収をとりまとめたりリサイクルチャンネル表(表1)のようなものがあると便利です。

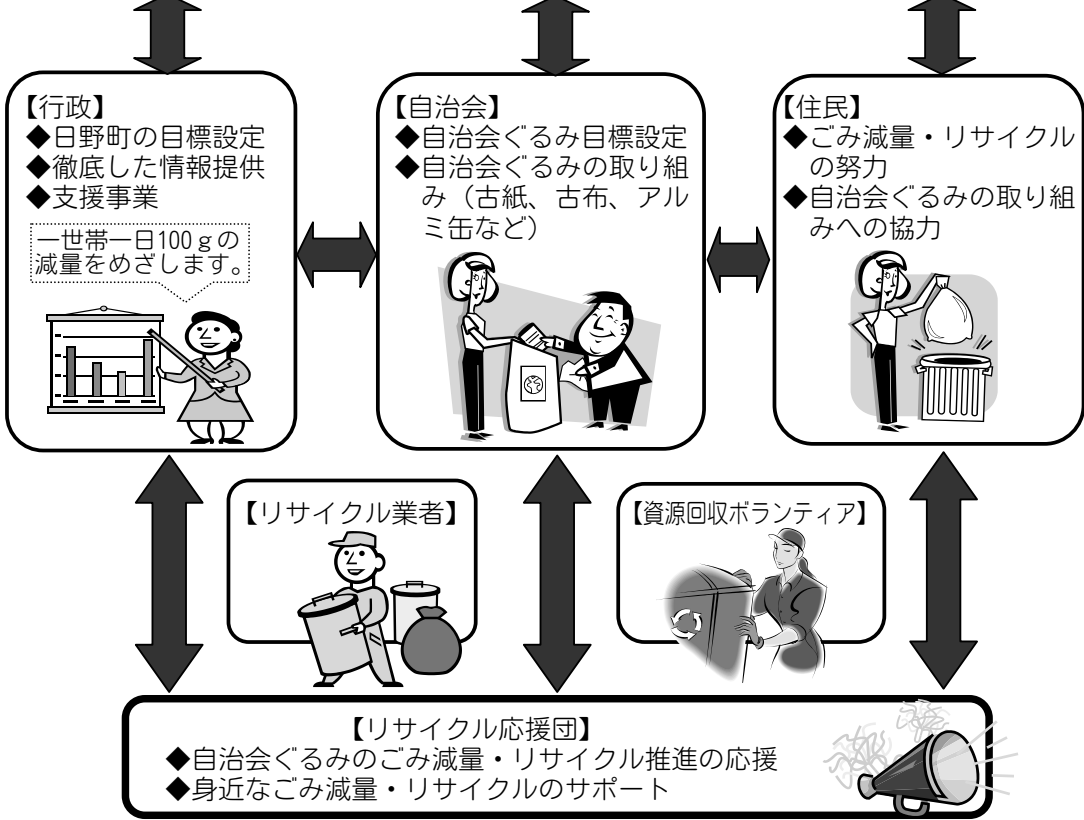
※日野なのはなクラブ：水環境保全、ごみ減量、循環型社会をめざして活動されているボランティア団体です。使用済み天ぷら油や賞味期限切れの植物油を公民館で回収されています。



イメージ図

23,000人のごみ減量・リサイクル大作戦
～めざせ一世帯一日100gのごみ減量～

チャレンジ
ごみ減量



めざせ一世帯一日100gのごみ減量
— 23,000人のごみ減量・リサイクル大作戦 —



【行政の役割】

- ◆「チャレンジ23,000人のごみ減量・リサイクル大作戦」と題して、ごみ減量に取り組みます
- ・「めざせ一世帯一日100gのごみ減量」を目標に、中部清掃組合へのごみ搬入量の少なさナンバーワンをめざします。

◆支援事業に取り組みます

- ・「わたむきの里リサイクルセンター」の活用検討
- ・「リサイクル応援団」モデル自治会活動推進事業

【自治会の役割】

- ◆自治会ぐるみの目標設定
- ・自治会ぐるみ生ごみゼロ宣言
- ◆自治会ぐるみの取り組み
- ・生ごみの共同処理
- ・資源回収（古紙、古布、アルミ缶など）
- ・資源回収ボランティアとの連携

【住民の役割】

- ◆一人ひとりがごみ減量・リサイクルへの努力 ↓ みんなが主役
- ・分別ルールの遵守
- ・生ごみ自家処理、生ごみ水切りの実践
- ・リデュース、リユース、リサイクルの実践
- ◆自治会ぐるみでの取り組みへの協力

- ◆徹底した情報提供をします
- ・ごみの発生抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再利用（リサイクル）の3Rの推進
- ・大量生産・大量消費・大量廃棄の生活スタイルの見直しや「ごみ処理に経費がかかること」を周知する
- ・リサイクル情報「どこへもって行けばいいか」↓リサイクルチャンネル表の推進
- ・各種キャンペーンの推進
- ・「ごみ袋から資源を抜こう」
- ・「お買い物袋持参」
- ・「再生品利用（グリーン購入）」



捨てればゴミ 分ければ資源

『一世帯一日100gのごみ減量』を達成すると…

◆各市町の中部清掃組合へのごみ搬入量（平成17年）

	旧八日市	旧永源寺	旧五個荘	旧蒲生	日野		竜王	旧能登川	安土
					H17実績	↓			
集積所回収量(t)	11,413	1,077	2,133	2,681	3,945	3,679	2,196	4,393	2,072
一日一人当たり(g)	679	460	482	484	464	432	456	515	454

一日一人当たりのごみ量は432g



ごみ量の小ささ

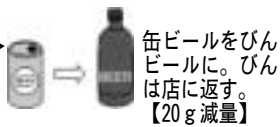
100gの減量のめやす

中部清掃組合管内でナンバーワン!

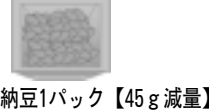
買い物で袋を断る



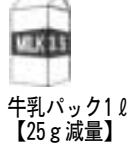
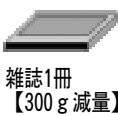
繰り返し使えるものや詰め替え商品を選ぶ



買いすぎ、つくりすぎをしない



リサイクル可能なものは資源回収に出す



ごみ減量・リサイクルの事例 —自治会の取り組み—

東近江市蒲生岡本町では、生ごみをごみ集積所に出さない取り決めを行って以来、集積所の袋数は半減したそうです。

日野町内でも自治会ぐるみで古紙回収を行っている地区も少なくありません。こうした取り組みが、ごみ減量・リサイクルに大変効果をあげています。

野出リサイクル会の取り組み

大字野出地区では、「野出リサイクル会」の皆さんにより、アルミ缶と古紙・古着の回収が行われています。この取り組みは、平成3年6月に野出の有志の皆さんによるアルミ缶回収から始まったものです。燃えるごみを減らすこと、先進地視察や字での学習会を開催



▲古紙・古着回収の様子

し、回収の方法について検討を重ねられ、平成17年6月から新聞紙、雑誌、ダイレクトメールやお菓子の箱などの古紙と古着の回収を始めた。

今では回収が定着し、回収日には、字の皆さんが一輪車や老人車に古紙や古着を乗せて集積所に来て来て、ちょっと立ち話をして帰られています。字の皆さんは、「回収日が決まっているから出しやすい」「遠くまで持って行かなくてもいいので助かる」と話されています。

野出リサイクル会のメンバーの方は、「燃えるごみ袋に入れていた紙類は、分けると資源としてまた活用できるということをもっと知ってもらいたい」と話されています。

みんなでごみ減量に取り組みましょう!

ごみ問題に関する国際的な共通認識は、今日の大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会経済システムを循環型に転換していく流れとなっていることも忘れてはなりません。ごみ減量・リサイクルの取り組みを推進するためには、自治会ぐるみでの取り組みが大きな力となります。

今回の検討報告では、「めざせ一世帯一日100gのごみ減量」と具体的な目標数値が示されたところです。町としてこの報告を参考に、住民一人ひとりができること、また自治会が協力し取り組めること、そして行政としての役割など、無理のない取り組みのなかから、継続できる活動を展開することが大切です。

可燃ごみとして処理されている菓子箱やダイレクトメールなどの雑多紙、また、白色トレイや紙パックの回収などについても検討しながら「一世帯一日100gのごみ減量」をさらに推進していきましょう。

◆住民課 生活環境交通担当

☎6578 有線⑤7784